【取材のご案内】

新潟県

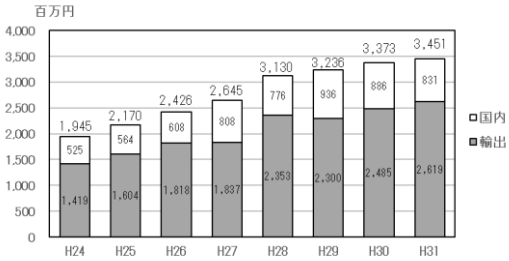
例年世界から多くのバイヤーが集まる“泳ぐ宝石”

世界最大級の錦鯉品評会『第60回新潟県錦鯉品評会』開催

コロナ禍の今年は海外向けにオンラインでの取り組みも実施予定

開催日：2020年11月7日(土)、8日(日)
開催場所：新潟県小千谷市　小千谷市総合体育館コミュニティプラザ

新潟県と一般社団法人新潟県錦鯉協議会は、**2020年11月7日(土)、8日(日)の2日間**、錦鯉の生産者による品評会としては**世界最大級の規模を誇る「第60回新潟県錦鯉品評会」開催**します。毎年、欧米・アジアなど世界各国から多くのバイヤーや錦鯉愛好家の参加があり、昨年は約1,100人以上が参加、品評会で優勝した錦鯉は数千万円の評価を得ました。今年度は新型コロナウィルスの感染対策を講じて開催する本品評会をご取材いただけましたら幸いです。



新潟県錦鯉輸出額の推移　新潟県水産課調べ

現在新潟県は、日本全国で536ある錦鯉生産者の経営体のうち331経営体を有し※1、推定34億円以上の生産額や、100種類近くに及ぶ生産品種を抱える**「日本一の錦鯉生産地」**です。県の錦鯉は主に観賞魚として、国内のみならず海外でも注目を集めており、北米や欧州、アジアやアフリカなど50以上の国や地域に対して錦鯉の輸出が行われています。また輸出金額は年々増加傾向にあり、新潟県単体の輸出金額は26億円にのぼると推定※2され、日本全体としての錦鯉輸出額47.2億円※3の6割を占めています。

錦鯉は江戸時代後期、新潟県の中越地方「古志郡二十村郷(現在の長岡市、小千谷市、魚沼市の一部)」で生まれたと言われ、新潟県は「錦鯉発祥の地」とされています。新潟県では、2017年5月5日に錦鯉を「県の鑑賞魚※4 」に指定し、県のシンボルとして県内外や海外に向け情報発信しています。

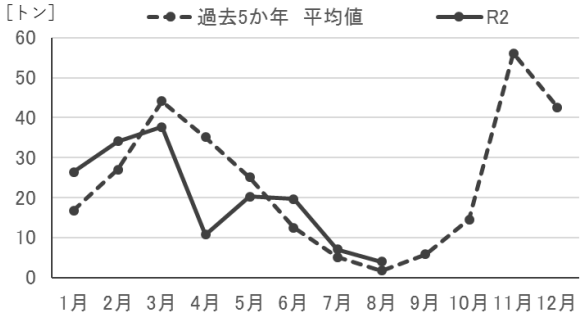
また、全日本錦鯉振興会新潟地区では、新型コロナウィルス感染症の影響により、本品評会にお越しいただけない県外や海外の方向けに、WEBを活用した取り組みを推進しています。本年4月の緊急事態宣言下において、初の開催となった錦鯉のネット品評会「インターナショナル・ニシキゴイ・ウェブグランプリ」は、国内外から約730匹の錦鯉が登録され、11日間で11万アクセス、投票数は6万5,000件を超えるなど大きな反響がありました。

新潟県では今後も、世界中の仲介業者や輸出業者と錦鯉の在庫情報をオンライン上で共有できる**「錦鯉在庫表示システム」**や実際にオークション販売を行う**「会員制錦鯉webオークションシステム」**などの整備を予定しており、オンラインを活用した錦鯉のＰＲ及び販売を行うことで、新型コロナウィルス感染症の影響により停滞しつつある新潟県内の錦鯉産業の活性化を推進してまいります。

※1　2018年漁業センサス　※2新潟県水産課調べ　※3　平成31年度金額 出典：財務省「貿易統計」
※4 一般的には「観賞魚」と表記しますが、錦鯉が美術的な価値があるという意味を込め、あえて「鑑賞」の文字を使用

昨年の品評会の様子

2020年の錦鯉の輸出状況



金魚を除く観賞魚の輸出量推移 財務省「貿易統計」

高価なものだと一匹数千万円の値が付く錦鯉は、バイヤーによる購入前の見定めが重要です。しかし、新型コロナウィルスの影響で海外のバイヤーの来日ができない状況下で購入控えが続いており、4月の輸出量は大幅に減少しています。比較的安価な錦鯉も、送料の高騰などが要因で注文が減少しています。

【第60回新潟県錦鯉品評会開催概要】

- 日時：2020年11月7日(土)…出品鯉搬入及び審査(8：00～14:00) ※ご取材も可能です。事前にお問合せください
  一般公開(14：00～17：00)
  11月8日(日)…表彰式(11：00～)
  一般公開(8：00～14：00) ※一般観覧者は参加費500円(小学生以下無料)
- 開催場所：新潟県小千谷市 小千谷市総合体育館コミュニティプラザ (新潟県小千谷市大字桜町4915)
- アクセス(東京方面からお越しの場合)：
  ＜車＞関越自動車道 小千谷IC▶約2分　＜電車＞上越新幹線長岡駅▶JR上越線小千谷駅からバス15分
- 主催：新潟県、一般社団法人 新潟県錦鯉協議会

<ご取材に関するお問合せ>
新潟県広報担当（株式会社プラップジャパン内 船津・向井宛）
TEL：070-2161-7049（直通） / FAX：03-4580-9133 / MAIL :niigata-pr@ml.prap.co.jp

参考資料

新潟県

海外から熱いまなざし　新潟県は「錦鯉王国」！

◆11月7日、8日は最大規模の品評会を新潟県小千谷市で実施

ここ最近、海外で人気の錦鯉。実は、新潟県が「錦鯉王国」ということをご存じでしょうか？
新潟県は、平成29年5月5日に錦鯉を「県の鑑賞魚※」に指定し、国内外に向けた情報発信と、県のシンボルとして県民に愛されるよう取り組みを続けています。

※一般的には「観賞魚」と表記しますが、錦鯉が美術的な価値があるという意味を含めて、あえて「鑑賞」の文字を使用しています。

Point.1　「錦鯉発祥の地」は新潟県

1. 誕生は江戸時代

錦鯉は新潟県の中越地方、古志郡二十村郷（現在の長岡市、小千谷市、魚沼市の一部）で江戸時代後期に生まれたと言われている。

2. 地域性が生んだ偶然

当地は山間部の豪雪地帯。冬のタンパク源として飼育していた真鯉が突然変異したものが、錦鯉の起源とされている。

3. 現在に息づく伝統的な養殖法

今でも家族単位の小規模な事業者が山間の棚田で昔ながらの方法で養殖を続けているが、これは新潟県だけの特徴。

Point.2　「日本一の錦鯉生産地」は新潟県　約331経営体

1. 経営体数　※H30年最新データ

新潟県の**経営体数は全国一であり、約60%を新潟県**が占めている。※全国：536経営体、新潟県：331経営体（H30）

2. 生産額

平成31年の新潟県の生産額は34億円以上と推定。
（輸出生産者92人のアンケート調査による）

3. 品種

錦鯉は100種類以上の多様な品種がいる。新潟県では殆どの種類の錦鯉が揃っており、他県にはない強み。

Point.3　「日本一の錦鯉輸出地」は新潟県　約26億円

1. 輸出額

平成31年の**新潟県の輸出金額は26億円程度**と推定され、**全国（47.2億円程度）の約60%**を占めている。

2. 輸出先

輸出先は、欧州圏やアメリカなど世界50ヶ国以上であり、近年ではアジア圏向けの輸出が増加。**中国は輸出再開により急激な伸びを見せている※H29：0.2億⇒H30:3.5億円**

3. 品評会

年に一度（毎年10月下旬ごろ）、小千谷市で大規模な錦鯉の品評会が行われ、国内外の錦鯉愛好家が当地を訪れる。

大地震からの復活！

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震。旧山古志村は至る所で大規模な土砂崩れ、山崩れで道路が寸断され陸の孤島と化し、ヘリコプターによる全村避難を余儀なくされた。

錦鯉産業も壊滅的なダメージを受けた。養鯉池の多くは壊れ、養鯉道具も失い、また水の枯渇、停電によるポンプの停止などで8割もの錦鯉が死んでしまい、廃業を考える業者も多かった。

しかし、海外からのバイヤーを始め、多くの愛好家の後押しがあったこと、そして何より生産者自身が「錦鯉は自分達が守る！」という強い意志の元、生き残ったわずかな錦鯉で、多くの養鯉業者が錦鯉の養殖を再開した。生き残った錦鯉の中には被災地からヘリコプターで救出されたものもあった。

この頃から、マーケットを飽和状態であった国内市場から海外市場へとシフトさせた。同時に、錦鯉のブランディングも意識し始め、現在では輸出が拡大、主流となり、県内生産者の売上の、実に約8割が海外向けと推計されている。

中越地震の際、
ヘリで救出される錦鯉

「KOI」は"泳ぐ宝石"　ブラッド・ピットも「錦鯉好き」を公言

英語で鯉は「carp」だが、海外の愛好家の間では「koi」または「nishikigoi」と呼ばれ、「ニシキゴイ＝NIIGATA」のイメージが定着している。

レディー・ガガが日本から27匹の錦鯉を輸入した、などといった未確認情報もあるが、**2019年９月主演映画のプロモーションで来日したブラッド・ピットは、現在は日本の鯉に興味があるそうで「滞在中はできれば、鯉の養殖を見学したい。鯉の話なら1時間はできる」**と話していた。これも海外での錦鯉の人気の高さを窺わせるものなのかもしれない。

新潟県にも多くのバイヤーや愛好家が訪れており、中には山古志で1ヶ月以上滞在するバイヤーもいる。

また、最近は水槽で飼育できる小型の錦鯉「ジュエリーフィッシュ」と呼ばれるものも人気がある。

新潟の山間部に集まる海外の錦鯉愛好家

水槽でも飼える「ジュエリーフィッシュ」

"勝組"の水産業！若手が育つ養鯉業

若者離れが進む水産業界において、後継者の確保は全国共通の課題。

しかし、錦鯉業界は、海外での高い評価を受けて、世界各国に新潟県産の錦鯉が数多く輸出されており、中山間地域での重要な産業になっている。

錦鯉の生産現場では多くの若者が活躍しており、錦鯉生産者（鯉師）になりたいという学生の中には17才にして鯉師を目指す少年もいる。日本の伝統産業全体が事業承継に課題を抱える現在において、今後のモデルケースとなる産業の一つであると見込まれる。

将来「鯉師」を目指す
17才の菊池　景斗さん

錦鯉を用いたデザイン

新潟県内には錦鯉をモチーフにデザインされた日本酒ボトルや、伝統工芸とのコラボで生まれた箸置きなど、錦鯉の美しさを活かした商品が続々と生まれている。

今代司酒造
『錦鯉』
世界３大広告賞のうち２冠を受賞

タクミクラフト
『KOIOKI コイオキ』

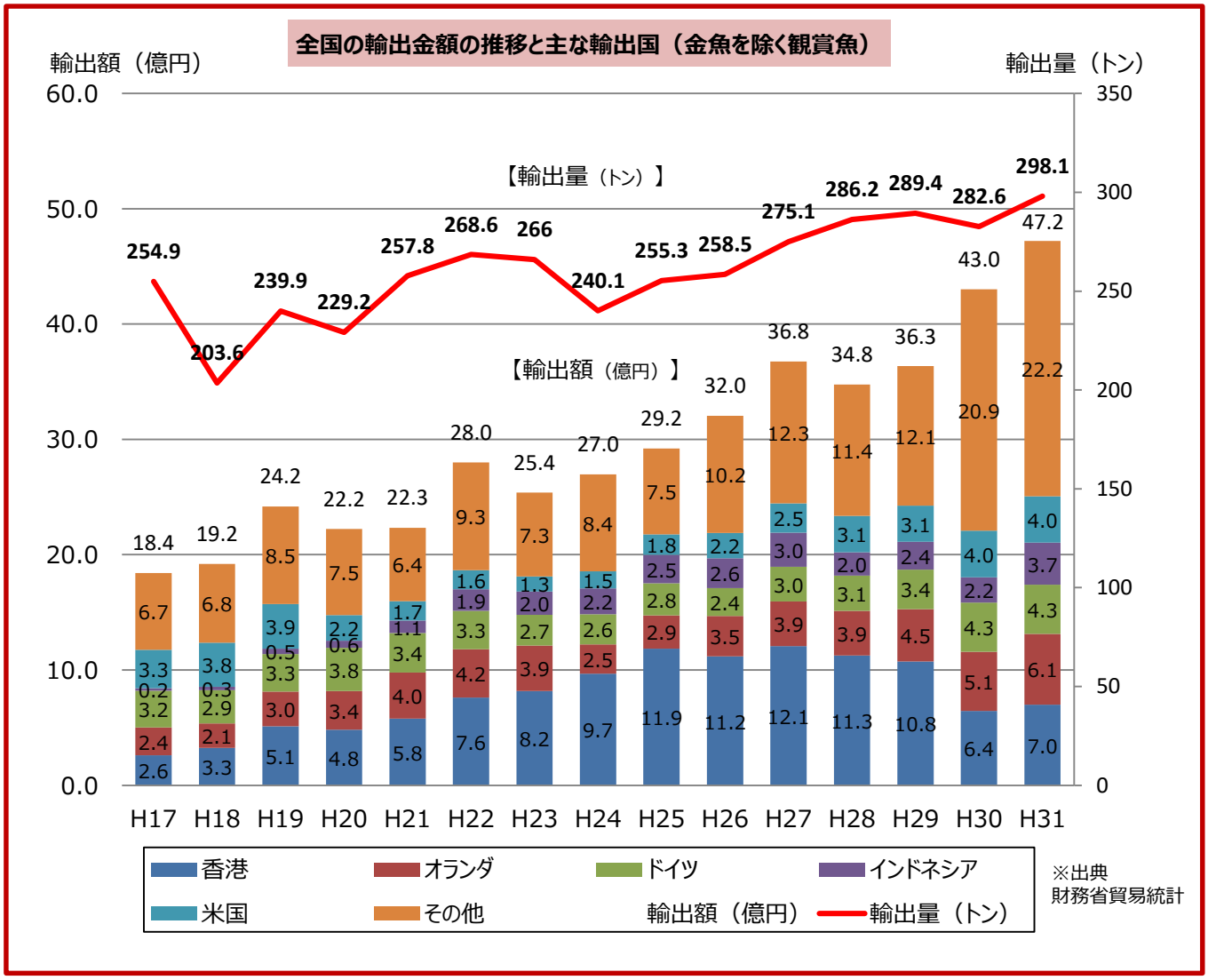
伸び続ける海外需要

新潟から世界各国へ輸出しており、**日本の輸出金額は約20年で3.6倍に成長。**

主な輸出先はアジア（香港、タイ、マレーシア）、欧州（オランダ、ドイツ、イギリス）、北米（アメリカ、カナダ）など。

【欧州】	21ヶ国	アイルランド、イギリス、イタリア、ウクライナ、エストニア、オーストリア、オランダ、ギリシャ、キプロス、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、デンマーク、チェコ、ドイツ、ノルウェー、フランス、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア
【北米】	2ヶ国	アメリカ、カナダ
【アジア】	19ヶ国・地域	インド、インドネシア、韓国、カンボジア、シンガポール、スリランカ、タイ、トルコ、台湾、中国、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、ベルギー、香港、マレーシア、ミャンマー、ロシア、マカオ
【中東】	3ヶ国	アラブ首長国連邦、イスラエル、カタール
【アフリカ】	3ヶ国	ナイジェリア、南アフリカ、モロッコ
【インド洋】	2ヶ国・地域	モーリシャス、レユニオン（フランス領）

計50ヶ国・地域



山奥のおばあちゃんがアムステルダムと取引！？

新潟県は比較的小規模な生産者が多く、家族経営の場合も多い。
おばあちゃんが海外に発送する伝票を書き、おじいちゃんが高価な錦鯉を発泡スチロールに詰めて発送するという姿が日常的にみられる。
いとも簡単に錦鯉は海外に輸出されている・・・のである。

里山は錦鯉が守っている！ 「池上げ」の儀式 10月中旬ごろ

この時期のみ
見られる風景

新潟県の養鯉業者は昔ながらの方法で錦鯉を育てているが、**中でも特筆すべきは、棚田を利用した「野池」で育てていることだ。**
中越地区山間部は、厳しくも明瞭な四季があるので、錦鯉の仕上がりが特に良いと言われている。

従来、里山保全に一役買ってきたのは棚田であったが、高齢化や後継者不在により、農家は棚田を維持できなくなり、次々と耕作放棄地になりかねない状態になった。
そこを養鯉業者が野池として再利用することで、棚田は役割を変え、錦鯉を養殖する場と生まれ変わり、同時に里山保全にもなったのである。
野池には山の上流の水源地から何kmにもわたって水を引いてきている。
その水は飲料水としても飲めるほど澄んだ水で、その水を野池に溜めて、春にそこに錦鯉を放ち、約5ヶ月間飼育する。

棚田を利用した「野池」

秋（10月中旬頃）には越冬させるために、野池から室内の池に錦鯉を移動させるのだが、この行為を「池上げ」という。
池上げは1匹1匹丁寧に、鱗1枚もはがさないよう、錦鯉を抱きかかえるように移していく。生産者はいとも簡単にそれをやってのけるが、見た目ほど簡単な作業ではなく、長年の勘と熟練の技が必要なのだという。

「池上げ」の様子

野池は1箇所だけではなく、養鯉業者によっては100箇所以上の野池を持つところもあるが、真夏でもほぼ毎日、1箇所毎に丁寧に見回るという。
しかも元は棚田だったところだけに、標高約500メートルという高さにある野池もあり、かなりの重労働だ。
今は1日に3回ほど自動で野池にエサを捲く機械が設置されているが、昔は1日に5回ほど、エサやりに野池を訪れていたというのだから、その苦労がどれほどのものだったかは、想像に難くない。

しかし、養鯉業者はそんなことは厭わず、ひたすら美しい錦鯉を飼育し続けると共に、自分達が里山を守っているという誇りをも持って取り組んでいる。

錦鯉とは・・・？

錦鯉は、赤・白・黒を始めとし、金、銀などの鮮やかな色彩をもつ日本を代表する観賞魚である。

18世紀後半に新潟県の二十村郷（現在の長岡市・小千谷市・魚沼市）で生まれたとされている。突然変異によって色のついた鯉が生まれ、これを品種として改良したものが錦鯉のオリジンである。

その後、約200年を経て、現在、錦鯉の品種は100を超えている。

現在でも熱心な生産者の元で品種改良が続けられているが、品種の固定化は困難を極める。50万～60万個の卵の中でも、売り物になるのは、その中の僅か１％とされる。新品種ができれば良いというのではなく、その後も良いものができる確率を上げていかねばならない。

それまではひたすら選別と交配を繰り返す。

平成26年に新品種の「黄白」がデビューしたが、これも誕生は平成9年であり、正式デビューまで実に17年もの年月がかかっている。

平成26年新潟生まれの
新品種 「黄白」

新潟の錦鯉の特徴

新潟県以外では錦鯉の「御三家」と呼ばれる「紅白・大正三色・昭和三色」を中心に生産している。新潟県においては御三家を中心に多くの品種の錦鯉を生産している。

新潟県では小規模生産者でも数種類、大手では10種類以上もの錦鯉を手がけている。長年に渡って引き継いできた系統と経験から多様な品種を作り出し、多くの生産者が、日々新品種の作出を試みている。現在、黄白を使った新品種開発にも取り組んでいる。

「御三家」

紅白

大正三色

昭和三色

その他品種の一部

丹頂

白写り

秋翠

からし鯉

元は食用だった？錦鯉のルーツ

発祥の地である山古志地域は山深く、棚田で稲作を行っていたが、冬期は雪で交通機能が停止するなど、食料を確保する必要があったことから、食用としての鯉を飼育する風習があった。

山古志の雪解けの地下水は稲作には冷たすぎるため、棚田の一番上の段に池を作り、いったんそこに水を貯めて水温を上げていたが、その池で食用の鯉を飼ったのが始まりである。

その後、田植えが終わった水田に稚魚を放しておき、秋に成長した鯉と米の両方を収穫するようになった。その食用の鯉がある時、突然変異を起こし、色つきの鯉に変化したのが錦鯉の始まりと言われている。

新潟の錦鯉の美しさは、中越地区山間部の厳しくも明瞭な四季によって育まれ、現在でも昔ながらの養殖方法が息づいている。

その美しさは日本のみならず多くの外国人をも魅了している。

錦鯉の故郷（野池）風景

錦鯉品評会について

品評会の見方と評価

錦鯉の飼育は屋外の池で飼育されてきた歴史上の経緯から、**上から見た姿を評価するスタイルが一般的**である。

評価は、「体型」、「質」、「模様」の3つを基本とする。体型とは、身体全体の肉付きやバランス、力強さを、質とは基本となる色の濃さ、均一性、厚みなどを、そして模様とは配色と配置のことを指す。**品評会では体型：4　質：3　模様：3という割合で、最近は体型重視の傾向。**

国内で人気がある品種は、通称「御三家」と呼ばれる「紅白」「大正三色」「昭和三色」の3品種であり、「赤」「白」「黒」を基調とした様々な配色を楽しむことができる。

最近では大きなものばかりではなく、水槽で飼えるような小型のものの人気が出つつある。

品評会の仕組み

品評会では、まず主な品種ごとに分けられ、次にサイズ別に分けられる。今回の新潟県錦鯉品評会では、13品種と15cm～80cm超まで5cmきざみの15クラスに分けられ、その中から大会総合優勝と準優勝、品種ごとの総合優勝と特別賞（大型賞など）が決まる。

品評会で賞を取るのは殆どがメスであることからメスが人気。

品評会入賞の意義

品評会で入賞すると賞金が得られるが、その額はそれほど高額ではない。**品評会に入賞することの意義は、その優秀な錦鯉のオーナーであること、あるいはそれを作出したという栄誉である。**

結果として、優勝した鯉がその後取引される場合、その価格は1,000万円を超える場合もあると言われている。

新潟県の錦鯉品評会は、生産者による品評会であり、生産者による品評会としては世界最大級の大会である。

第60回新潟県錦鯉品評会

期　　日	2020年11月7日（土）、8日（日） ※表彰式は８日（日）11:00～ ※一般公開は７日 14:00～17:00、　８日 8:00～14:00
会　　場	新潟県小千谷市大字桜町4915　小千谷市総合体育館コミュニティプラザ
参 加 費	一般観覧者500円（小学生以下無料）
主　　催	新潟県、（一社）新潟県錦鯉協議会
後　　援	全日本錦鯉振興会新潟地区、新潟日報社、NHK新潟放送局、 BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21

【本件に関するお問い合わせ先】

新潟県広報担当　：株式会社プラップジャパン（担当 船津、向井）
Tel：03-4580-9107　Fax：03-4580-9133メール：niigata-pr@ml.prap.co.jp